

## ■ 衝突軽減ブレーキ (CMBS)

衝突軽減ブレーキ (CMBS) は、自車が前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるとき、歩行者および人が乗車し移動している自転車(移動する自転車)に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

自車が約5km/h以上で走行中に、自車との速度差が約5km/h以上ある車両、歩行者および移動する自転車に対して衝突のおそれがある時に、CMBSが作動します。

交差点などでの右折時は、自車が約30km/h以下で走行中に対向車両に対して正面で衝突する恐れがあるときにCMBSが作動します。

対向車両、停止車両、歩行者および移動する自転車に対しては、自車が約100km/h以下で走行中に衝突の恐れがあるときにCMBSが動作します。CMBSが作動し、停車した後または衝突のおそれなくなったと判断した後にCMBSは解除されます。なお、衝突を回避しようとして、運転者がハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを操作したときは、システムが解除されることがあります。

衝突軽減ブレーキ (CMBS) は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。

カメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

機能に頼った運転をすると、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

ご使用の前に、必ずご使用になる機種取扱説明書をお読みください。

取扱説明書は、Hondaホームページにて、閲覧可能です。

# ■ 踏み間違い衝突軽減システム

踏み間違い衝突軽減システムは近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能、後方誤発進抑制機能の3つの機能を持ったシステムです。

フロントおよびリヤバンパーに設置してあるソナーセンサーによって、自車が、壁などの障害物に衝突するおそれがある場合のブレーキ制御や壁などの障害物があるにもかかわらずアクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合のパワーシステムの出力抑制により、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

- ・近距離衝突軽減ブレーキ

約2km/h～約10km/hで走行しているとき、壁などの障害物に衝突するおそれがあるとき運転者のブレーキ操作を支援し、音と表示でお知らせします。

- ・誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能

停車時や約10 km/h以下で走行しているとき、自車のほぼ正面もしくは真後ろの近距離に壁などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合には、音と表示で知らせるとともにパワーシステムの出力抑制をすることで急な前進・後退を防止します。

踏み間違い衝突軽減システムは、あらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎ、または見落としによる衝突を回避したり、衝突による被害を軽減できるものではありません。

機能に頼った運転をすると、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。運転者がシフトポジションやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

ご使用の前に、必ずご使用になる機種の取扱説明書をお読みください。

取扱い説明書は、Hondaホームページにて、閲覧可能です。

# ■ 歩行者事故低減ステアリング

カメラにより歩行者と白線（黄線）を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

歩行者事故低減ステアリングは以下の状態で作動します。

- ・歩行者が路肩を歩行しているときに、車両がその歩行者に向かって車線から逸脱していくとき
- ・白線（黄線）が連続しているとき
- ・車速が約10～40km/hで走行しているとき
- ・直線の道路を走行しているとき

歩行者事故低減ステアリングは以下の状態では作動しません。

- ・ワイパーを高速で作動させているとき
- ・方向指示器（ウィンカー）を出しているとき

歩行者事故低減ステアリングは、運転者の運転操作を支援するシステムです。

あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

機能に頼った運転をすると、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

ご使用の前に、必ずご使用になる機種取扱説明書をお読みください。

取扱い説明書は、Hondaホームページにて、閲覧可能です。

# ■ 路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能は路外逸脱抑制機能がONされている時にフロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線（黄線）、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知し、方向指示器（ウィンカー）を使用せずに白線（黄色線）を逸脱、もしくは逸脱しそうになったことを判断したとき、作動します。システムはステアリングを制御して車両が車線逸脱しないように支援するとともに、マルチインフォメーションディスプレイによる警報、ステアリング振動もしくはブザー音により運転者の回避操作を促します。

路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき、作動します。

- ・白線（黄線）の場合は車速が60km/h～120km/hのとき(対向車両が走行している場合は車速が30km/h～120km/hのとき)
- ・草、砂利などの道路境界の場合は車速が30km/h～120km/hのとき
- ・直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ・方向指示器（ウィンカー）を使用していないとき
- ・ワイパーを高速で作動させていないとき
- ・システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

ご使用の前に、必ずご使用になる機種の取扱説明書をお読みください。  
取扱い説明書は、Hondaホームページにて、閲覧可能です。

## ■ リアワイドカメラ

- ・後退時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認してください。
- ・リアワイドカメラシステムのカメ​​ラは特殊なレンズを使用しているため、画面に表示される映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- ・リアワイドカメラのレンズは常にきれいにし、ふさがれることがないようにしてください。
- ・ご使用の前に、必ずご使用になる機種​​の取扱説明書をお読みください。  
取扱い説明書は、Hondaホームページにて、閲覧可能です。

# ■ オートハイビーム

オートハイビームは夜間走行時に前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてヘッドライトのハイビームとロービームを自動的に切り換えるシステムです。

オートハイビームが作動しているとき、以下の条件によりハイビームとロービームが自動で切り替わります。

## ハイビームへの切り替え

以下の3つの条件をすべて満たすとハイビームに切り替わります

- ・車速が30km/h以上
- ・前方にライトを点灯した車両がない
- ・前方に街灯などの光がすくない

## ロービームへの切り替え

以下の3つの条件のいずれかを満たすとロービームに切り替わります。

- ・車速が24km/h以下
- ・前方にライトを点灯した車両がいる
- ・前方に街灯などの光が多い

ご使用の前に、必ずご使用になる機種取扱説明書をお読みください。

取扱い説明書は、Hondaホームページにて、閲覧可能です。